



乳用牛群検定普及定着化事業

# 検 定 組 合

牛群検定だより

第4号(2008.3)

# 発

発行元：(社)家畜改良事業団 電子計算センター

〒107-0031 東京都中央区京橋1-19-8 大野ビル2F

Tel 03-3561-8191 FAX 03-3561-8166

e-mail : webmaster@liaj.or.jp URL : http://liaj.lin.go.jp

## 意欲的な女性検定員を擁して

## 宮城県の牛群検定が変身した

宮城県の牛群検定は、ありていに言えば低調であった。しかし、5年前に関係の機関が一致結束して「牛群検定普及推進協議会」を立ち上げてから、着実な進展が見られる。関係者の真剣な取り組みと努力が実ったことになる。

手始めは乳質の改善で、体細胞数の低減を目指して現場重視の巡回指導に取り組んだことが酪農家の意識改革につながったようだ。

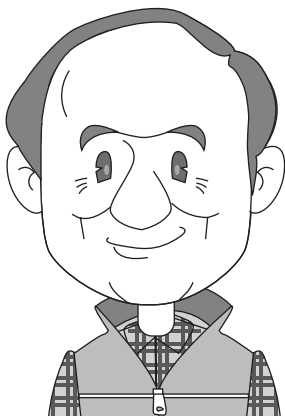
右図のとおり、連携のとれた望ましい指導体制で普及センター、家保などの県職の方々も協力を惜しまない。検定員は13名うち専任は6名、酪農ヘルパー、主婦などで構成されその殆どが女性方であることが特筆されよう。

県内には3つの検定組合があるが、とくに実績を上げている第3組合を訪ねた。県南の角田市、伊具郡丸森町が軸で4市9町1村の酪農家が所属する広域の組合である。

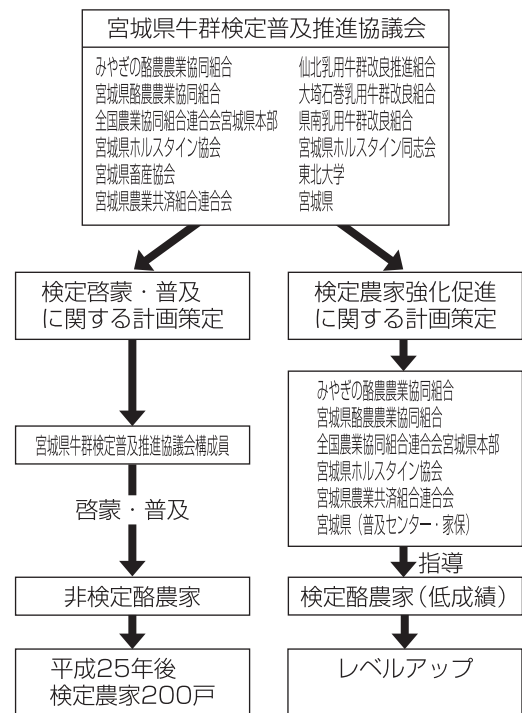
この組合を束ねる渡辺

博組合長は4代目、地域酪農振興に尽くす実践的指導者でもある。総勢100頭の自群管理のかたわら、組合事務所や改良普及センターに足繁く通って助言や要望などにも関わっておられる。

また、酪農経営データベースのソフトを用い自らの検定成績を披露して酪農家に熱心に検定加入を勧めておられる。宮城の牛群検定が今後ますます発展することを期待したい。



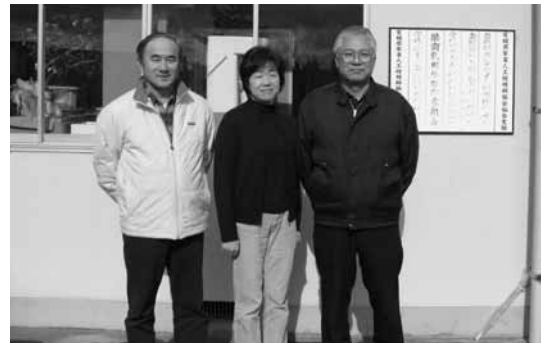
第3組合の渡辺組合長





# 第3 検定組合の概要と活動

- ・ 県内の検定農家は101戸、うち半数強がこの管内の酪農家で占める。
- ・ 管内の検定員は5名で、内訳は専任が2名酪農ヘルパー2名、主婦1名。男性はヘルパーの1名のみ。女性パワー全開である。
- ・ 検定組合事務所は県畜産協会の仙南事業所に構え、2人体制で対応している。
- ・ 大河原農業改良普及センターは、県の情報分析センターからのデータを再加工して牛群や個体ごとにコメントを加え「牛群検定結果検討書」を発行し、必要に応じ現地指導に赴く。



検定組合事務所前にて 組合長(左)・大場さん(中)・佐藤所長(右)



普及センターの齋藤技師(左)

## < 検定結果検討書のコメント例 >

**牛群全体に対して**：分娩後の成分が低い状態があります。バランスが悪いわけではないことや、乳量がだいぶ出ているので仕方ないと感じる部分もあるかもしれませんが、特に粗飼料の消化性、消化スピード、飼料品質（CPレベルを含め）を考慮し、綿密な飼料選択で対応する必要があると思います。 など

**個体成績に対して**：全体的に乾物摂取量が不足していませんか（水も含め） など

- ・ 組合独自の情報「03組合牛群検定ニュース」では、検定農家別の「繁殖成績」「乳量・乳成分」「補正乳量」のランキングリストを発行し、組合員相互の切磋琢磨を図っている。



## < 検定組合より一言 >

### < 繁殖成績のランキング >

分娩間隔は前回分娩時から今回分娩時までの平均日数で、実績値です。  
空胎日数は今回分娩時から受胎までの平均日数で、これに280日を加えた日数が次期の分娩間隔となります。  
ランキングは、分娩間隔、空胎日数の日数が短い順に上から並んでいます。

|   | 分娩間隔 | 授精回数 | 平均搾乳日数 | 搾乳牛頭数 |
|---|------|------|--------|-------|
| 1 | 383  | 1.9  | 196    | 50    |
| 2 | 388  | 1.8  | 181    | 28    |
| 3 | 390  | 2.2  | 263    | 24    |

|   | 空胎日数 |
|---|------|
| 1 | 118  |
| 2 | 122  |
| 3 | 128  |

### < 乳量・乳成分のランキング >

搾乳牛乳量は、平均搾乳日数によって増減します。一般に平均搾乳日数が長くなる（分娩間隔が長くなる）と平均搾乳牛乳量は低下し、乳成分は高くなります。  
ランキングは、搾乳牛乳量、補正乳量が多い順に上から並べられています。

|   | 搾乳牛乳量 | 乳脂率 | 蛋白質率 | SNF |
|---|-------|-----|------|-----|
| 1 | 36.2  | 3.8 | 3.3  | 9.0 |
| 2 | 35.1  | 3.6 | 3.5  | 9.2 |
| 3 | 34.1  | 3.6 | 3.3  | 9.0 |

|   | 補正乳量   |
|---|--------|
| 1 | 11,951 |
| 2 | 11,892 |
| 3 | 11,862 |



## 検 定 記 録 活 用 の 優 良 農 家 事 例

・県内には、優秀な酪農家が多いが、特に、第3検定組合管内の角田・丸森地区は、立地条件にも恵まれて模範的な経営を展開している酪農家が多い。

・取材した酪農家は、いずれも牛群検定結果を経営に活かして1万kg台を達成している。現在の経営環境は、エサ高騰でかつてなく厳しいが、牛飼いにかける夢は大きく活力が感じられた。



幹線道路側に立つ看板

・経営の方針やスタイルは違うが、3牧場とも可能な限り相当量の粗飼料を生産し自家育成牛を揃えている。検定成績表では、乳成分バランスが良く管理技術に優れていることが窺える。以下、各牧場の顕著な特徴を上げた。

### 一条牧場

- ①他県の酪農団体に勤務経験のある元技術者で、牛群管理に明るい後継者。
- ②経産牛48頭、日量1,225kg。資質の良い牛群で、過肥牛は皆無。乳器の衛生管理を重視し体細胞数は7.7万(20年12月時点の成績表、以下同じ)。



正面が一条薫さん

### 半沢牧場

- ①県・全国同志会役員、ジャッジマンでも活躍。優れたカウセンスの持主。
- ②経産牛152頭、日量4,256kg。管内一の大型牛群。分娩間隔は393日だがもっと延びた方が搾れると主張するほどの好ましい繁殖成績であった。



半沢善幸さん

### 渡辺牧場

- ①検定組合長(既述)の牧場。奥様とご子息夫妻による典型的な家族経営
- ②経産牛64頭、日量1,508kg。工夫をこらした新FS牛舎で、牛の快適性が十分考慮されていた。



牛飼い冥利・ログハウス



# 繁殖成績の低下と栄養管理



## ● 高泌乳牛の発情徴候が弱い理由は？

代謝が盛んで、卵胞を造り発情を起こさせるエストロゲン濃度が低くなるため、発情発見が難しくなっている（山口大・中尾教授）

## ● 繁殖成績の良い高泌乳牛群もある！

乳量レベルが上がると繁殖成績が悪化するわけではない。

## ● 卵巣・子宮の機能低下、発情見逃し！

これらが繁殖成績低下の主な要因であろうが、泌乳初期において「能力に見合った栄養管理が伴っていないこと」が大きく影響していると思われる



## 牛群検定成績に見られる傾向

| 繁殖成績   | 泌乳初期における検定成績 |            |            |
|--------|--------------|------------|------------|
|        | 乳量レベル        | F% (5%以上牛) | P% (3%未満牛) |
| ① 良好牛群 | 高い           | 少ない        | 少ない        |
| ② 遅延牛群 | 低い           | 多い         | 多い         |

### ① 繁殖成績の良好牛群は：

- ・適切なエサやりと快適な牛舎環境（カウコンフォート）などで、乳量レベルを引き上げていることが、繁殖にも良い結果をもたらしている
- ・これらは、良好な乳成分バランスとなって表れている

### ② 繁殖成績の遅延牛群は：

- ・栄養不足で体脂肪の過剰な動員があったことが、高乳脂率牛の出現となって表れている
- ・また、エネルギー不足であったことが、低蛋白質率牛が多いことからうかがい知れる
- ・これらが分娩間隔、空胎日数を延長させる要因となっている